

平成 24 年度 施政方針（概要版）

議員の皆様には、平成 24 年 3 月定例会に御参集をいただき、心から感謝を申し上げます。本日ここに、平成 24 年度予算案、並びに諸案件をご審議いただくとともに、私の所信及び町政の基本方針を申し上げ、住民の皆様並びに議員各位の御理解と御協力を賜りたいと存じます。

はじめに

町長就任から早いもので 4 年目を迎えております。この間、2 度の地域懇談会を開催するなど、様々な機会、会合を通じて、住民の皆様方から町政に対する御意見や御要望を伺ってまいりました。昨年の地域懇談会におきましては、「第 5 次熊野町総合計画」をお示しし、今後のまちづくりの方向、地域の課題などを住民皆様と、懇談いたしました。

町政を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、こうした活動を基本に、また議員各位や、住民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、目指す将来像「ひと まち 育む 筆の都 熊野」の実現に向け、町政の舵取り役として鋭意、町政の運営に取り組んでまいります。

町政を取り巻く諸情勢

〔経済情勢への対応〕

昨年 3 月、未曾有の被害をもたらした東日本大震災により、日本経済は深刻な打撃を受けました。政府による数次に渡る補正予算など、現在も復旧・復興の努力がなされています。

平成 24 年度の日本経済は、欧州の経済危機、円高などの不安要素を抱えていますが、本格的な復興施策の推進により、着実な需要の拡大と雇用の創出が見込まれ、国内景気は緩やかに回復していくことが見込まれています。

〔社会保障・税一体改革について〕

政府では、安定した社会保障制度を将来に渡り構築するため、「社会保障と税の一体改革」を推進しており、必要な負担を分かち合うという観点から、国民の理解と経済状況の好転を前提に、消費税収を社会保障財源化し、税率を段階的に引き上げるとしています。

今後、消費税法の改正を含む税制抜本改革関連法案が提出される予定であることから、本町における社会保障関連経費の増加傾向を踏まえ、国の動向に十分注視したいと考えます。

また、引き続き財政の健全性の確保にも十分に配慮します。

〔筆産地の魅力拡大〕

昨年は、サッカー日本女子代表が世界一となる明るい話題がございました。この功績が称えられ、「なでしこジャパン」の選手に国民栄誉賞が贈られ、その副賞として我が町の化粧筆が選ばれるという、大変名誉で、喜ばしいことがございました。

我が町の「熊野筆」という強固な地域ブランドが確立されたものであり、歴史と伝統がこの度の国民栄誉賞の副賞と繋がったものと確信しています。

引き続き、筆産地の歴史と文化を生かした町づくりを推進し、日本全国に情報発信をするなど、町の活性化に努めます。

平成 24 年度の重点的な取り組み

平成 24 年度の主要施策と取り組みを、熊野町総合計画の施策目標に沿って申し上げます。
なお、23 年度の補正予算案で、国の第 3 次補正予算に関連する学校施設耐震補強の経費を計上し、新年度に繰り越すことから、これ踏まえた内容とします。

〔子どもが健やかに、たくましく育つまちとする〕

子育て支援については、小・中学生の入院医療費の助成と、就学前の子どもを対象とした医療費の無償化を引き続き実施し、子育て世代の負担軽減を図ります。

保育所では、基本的な保育の他に、延長保育、病後児保育、一時保育を実施しております。本年度実施した休日保育など、新年度も多様なニーズに対応します。

また、健やかな妊娠と出産を支援するため、妊婦健診を継続するとともに、病原体の母子感染対策として、ウイルスの抗体検査などを行います。さらに、乳児家庭の全戸訪問、乳幼児健康診査、育児相談などにより、乳幼児の健康や発育の保持増進に努めます。

安心・安全の教育環境の充実として、国の補正予算による補助金と、緊急防災・減災事業債の活用により、熊野中学校西校舎と第四小学校体育館の耐震補強工事を実施します。この度の補正予算案で、関係経費を計上するとともに、繰越事業として実施する計画です。

さらに、熊野東中学校の管理棟他、及び第二小学校の普通教室他の耐震補強工事の実設計画を行い、27 年度の耐震化率の目標値 80% に向けて事業を実施します。また、学校施設の維持管理では、劣化している第二小学校プールなどを改修いたします。

基礎学力の向上は、着実に向上しており、新年度も各種学力検査を実施し、児童・生徒一人ひとりに応じた指導を行います。また、学校支援員を全小中学校に各 1 名、生徒指導相談員を両中学校に各 1 名配置し、不登校気味の生徒などに、きめ細かな対応をします。

健やかに楽しく学べる環境の充実では、新たな事業として、0 歳から中学校 3 年生までの児童・生徒を対象に、「うちどく」事業を始めます。家族との読書を推進し、家族間コミュニケーションや、子どもの言語力向上や学力向上を図るもので、町を挙げての協力体制で臨みます。

〔共に支えあい、健やかに暮らせるまちとする〕

高齢者施策では、「第 5 期介護保険事業計画」の基本理念のもと、介護保険事業の円滑な運営に努め、新たに「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の提供体制を整備するとともに、地域健康センター等を拠点として、生きがいづくりや介護予防の取り組みを推進します。

また、「地域包括支援センター」の機能強化や、見守りネットワークの充実を図ります。

障害者施策については、腎臓障害者通院助成を拡充するほか、発達障害を含めた乳幼児期から成人期までの一貫した相談支援体制の推進を図ります。

「第 3 期障害福祉計画」に基づき、「地域生活支援サービス」の提供に努めるほか、自力避難が難しい障害者のため、災害時要援護者避難支援体制の構築に着手します。

さらに、障害者の自立促進、雇用促進への取り組みとして、NPO 法人「熊野人材センター」が開所された福祉作業所「ハナミズキ」の取り組みに期待しており、今後、事業拡大が図られ、一人でも多くの雇用が確保できるよう積極的な支援を行いたいと考えております。

感染症対策では、定期予防接種に加え、子宮頸がん予防ワクチン等の任意接種事業を継続実施するとともに、休日や夜間の救急医療体制を確保するほか、県や他市町、大学や医師会などとともに、医師や診療科の偏在解消などに取り組めます。

〔住民の誰もが尊重され、活躍できるまちとする〕

ふれあいのある地域社会の形成として、県道瀬野呉線の道路拡幅に伴い移転が必要となった新宮老人集会所を、新宮コミュニティーセンターとして整備します。

また、住民参加型のまちづくりを推進するため、財団法人民間都市開発推進機構の資金拠出を受けて、住民団体などが自主的かつ持続的に取り組む、まちづくり活動のハード整備に対して助成します。

〔住民が創造力を発揮できるまちとする〕

生涯にわたって学べる環境づくりへの取り組みとして、新年度も芸術文化振興事業を行います。広島交響楽団「弦楽四重奏の夕べ」や、「公共ホール活性化・木管五重奏公演」では、福祉施設、中学校での交流活動も実施します。さらに、人間国宝級の能楽師を招き、平家物語をテーマとする本格的な能楽と狂言の公演を予定しています。

地域の生涯学習の拠点である公民館は、3館の連携強化を図るほか、町民会館では舞台音響設備を改修します。町立図書館では、図書システムの全面更新を行い、利便性を高めます。

この他、第50回大会となる町民体育大会や、第40回となる熊野駅伝大会をはじめとして、生涯スポーツの振興に関することをNPO法人熊野健康スポーツ振興会と連携して実施します。

〔暮らしの基盤が整ったまちとする〕

広域的な道路整備では、4月1日に東広島・呉自動車道の黒瀬から阿賀までの区間が開通する予定であることなどから、縦横的な都市間移動が確保できるものと期待しています。

町内では、県道矢野安浦線の熊野黒瀬トンネル掘削工事が25年度の開通へ向けて本格的に開始されます。また引き続き、道垣内交差点付近などで用地買収等が実施される予定です。

矢野安浦線と瀬野呉線を接続する瀬野呉線バイパスは、詳細設計が実施される予定です。

この他、県事業として呉地・出来庭地区で、橋梁架設工事と併せて町道昭和線に接続する工事や、新宮地区では、交通安全施設等整備事業が実施される予定です。

砂防事業では、雲母地区砂防堰堤事業が着手され、用地買収が実施される予定です。

県事業については、早期の完成を要望するとともに、円滑な推進に全面的に協力します。

深原地区町有地造成事業ですが、周辺道路の整備により、交通、流通の拠点としての位置づけが確立されると考えます。今後、砂防堰堤の築造工事などを行う予定です。

暮らしやすい住宅の提供ですが、町営住宅は、約3分の1が40数年経過した木造住宅です。今後の住宅施策を総合的、計画的に推進するため、「町営住宅長寿命化計画」を策定します。

公共下水道事業では、新宮地区及び平谷地区の一部で、約8haの整備を予定しており、完了後の普及率は、約90%となる見込みです。

上水道事業では、高所配水団地水道施設として、皇帝ハイツ及び湖水園団地の整備を行うとともに、新宮地区を中心とした未給水地区の整備を進めます。

〔日常生活を快適に暮らせるまちとする〕

バス路線の廃止、高齢化の進行などから要望があった「生活福祉交通」は、ワークショップの開催などにより策定している計画に基づき試験運行を行います。その後、住民の皆様の御意見、要望により、ルートなど柔軟に対応したいと考えています。

日常生活に密接に関連する町道ですが、東部地域では、「深原公園線」第3期工事を、西部地域では、「出来庭川角中央線」新設事業を継続して実施します。また、「団地2号線」の舗装修繕工事や、その他の町道についても、拡幅などの一部改良を適宜実施します。

〔安全に安心して暮らせるまちとする〕

震災や集中豪雨などによる大規模災害に備え、実効性のある、自主防災組織の確立や総合防災訓練の実施を図るとともに、備蓄計画に基づく非常用食糧などを計画的に購入します。

また、防災行政無線放送は、聞き取りにくい地域などの対策として、電話により放送内容が確認できる電話音声案内装置を設置します。

〔地球環境に調和したまちとする〕

環境対策では、本年度、町内防犯灯のLED化をしました。また、住宅用太陽光発電システム等普及促進事業は、住民の皆様の要望などにより、単独町費で事業を継続します。

農業振興対策では、箱罌等駆除設備の拡充などにより、一定の成果がありました。新年度は、イノシシ防除施設の設置補助や駆除に加え、ヌートリア対策の拡充にも取り組みます。

〔元気のある産業が育つまちとする〕

伝統産業である熊野筆産業の持続的な発展のため、熊野筆事業協同組合が行う筆職人後継者育成事業や、筆の日及び筆まつり実行委員会への助成など、筆産業の振興に努めます。

商工対策では、熊野町商工会の運営を支援しながら、10%のプレミアムを付加した商品券を発行し、町内消費の拡大と町内商店、事業所の活性化を図ります。今回は買物スタンプラリーや、BUY熊野キャンペーンを連動させ、より効果的な地元購買促進事業を展開します。

観光対策では、海の道構想に沿って広島県観光連盟等関係機関と連携を深め、地域資源を活用した観光圏の広域化を推進するとともに、宿泊施設対策として、民泊事業を検討します。

〔筆産地の歴史と文化を生かした出会いと交流のあるまちとする〕

筆の里工房で、東京国立博物館の特別協力により、「平家納経」全33巻や、源氏物語をお借りし、「よみがえる王朝のみやび展」を開催します。

また、東京中心部に、「熊野筆セレクトショップ」を出店し、熊野筆の情報発信に努めます。

さらに、東日本大震災で大きな被害を被られた石巻市で開催される「文房四宝まつり」に参加し、雄勝硯の産地復興を著名人や文化人から寄せられたメッセージにより支援します。

新たな取り組みとして、全国への情報発信、地域活性化などを目的に、法政大学と包括的な地域連携協定を結びます。当大学が有する多分野に渡る情報や、ノウハウの活用とともに、当大学と協定を締結した先進的な団体と交流を図り、開かれた町づくりを更に推進します。

新年度の予算規模

以上の施策を中心に、予算編成を行った結果、平成24年度一般会計の当初予算額の総額は、約73億9,641万円で、本年度と比べ0.8%の減となっております。なお、27年度から導入予定の固定資産税の市街地宅地評価法については、債務負担行為を設定し、準備を進めます。

また、特別会計につきましては、4会計で約66億5,332万円、本年度と比べて1.5%の増、企業会計である上水道事業会計については、約6億209万円、本年度と比べて18.4%の減となっております。

終わりに

終わりに、今後も、住民の視点に立ち、第5次熊野町総合計画に沿ったまちづくりに全力を傾注してまいりますので、諸施策の推進につきまして、議員各位を始め、住民の皆様の格別なる御理解と御協力を賜りますようお願いを申し上げます。平成24年度の施政方針とさせていただきます。